



大樹のこころ

栄養教諭

本校には「栄養教諭」がいます。栄養教諭という言葉は聞き慣れないかもしれませんが。簡単に説明すれば「食に関する専門の先生」とでも言いましょうか。栄養教諭は岡崎市全体で12人しかおらず、そのうちの一人が本校に配属されています。これはとてもラッキーなことです。

本校の栄養教諭は、朝出勤すると、しばらくして北部給食センターへ出かけます。給食センターで、その日に配食される給食の調理状況などを確認します。食の安全は最重要案件。子供たちの安全のために最大の配慮をしてくれています。給食の時間になると、栄養教諭は学校に戻ってきます。帰ってくる早々、休む暇なく各教室の給食の状況を確認するために校内巡視へ。献立作成にも関わっているので、その日のメニューに対する子供たちの反応をダイレクトに把握してくれます。給食後の片付けの際には、配膳室へ行き、各クラスの返却の様子を見守ってくれます。本当に助かります。配膳室近くの掲示板には「給食コーナー」があり、この掲示物の作成も栄養教諭の仕事です。



この他にもまだまだ活躍の場があります。栄養「教諭」ですので、授業も行います。主に食に関する内容です。担任に代わって行われる食についての授業。専門職ですので、クオリティが高いものとなっています。また食育だより「かみかみもぐもぐ」の発行も行い、興味深い内容と素敵な紙面構成で好評を博しています。また本校の職員としての校務分掌もあり、学校新聞「大樹」の編集発行も担っています。委員会にも従事し、給食委員会による「給食センターの秘密を見つけよう」という動画を、給食の時間に放送してくれました。これまで給食センターの内部を見たことがなかったので、自分も興味津々となっていました。



栄養教諭が大きく貢献していることの一つに「食物アレルギー対策」があります。最近、食物アレルギーに悩む子供が増えてきており、誤食による事故が起こらないよう細心の注意が必要です。本校では栄養教諭と養護教諭が中心となって「アレルギー対応委員会」が組織されています。毎学期の初めに栄養教諭・養護教諭が作成するリストをもとに、アレルギーへの対策が確認されていきます。この対応委員会が機能しており、これまで食物アレルギーに関する事故が1件もありません。



このように多くの分野で活躍してくれる栄養教諭。おかげで大樹寺小では食の安全が守られ豊かな給食ライフが送られています。自分の健康促進と栄養教諭に感謝する意味を込めて、好き嫌いを言わずに給食を食べたいですね。